

# 変化する時代を切り拓く しなやかな大学へ



## 山口大学執行部紹介

**令** 和4年4月、谷澤新学長のもと新たな執行部が編成されました。変化する時代を切り拓き、地域に世界に貢献する山口大学をリードする執行部の熱い思いを紹介します。

### 01 松野 浩嗣

理事・副学長（総務企画・DX・情報セキュリティ・大学評価担当）

#### デジタルでもっとよい山大へ！

私の担当は、「総務企画」と「DX」と「情報セキュリティ」と「大学評価」です。4つもありますが、これらはいずれも『組織』に関すること、という共通性があります。成績などの学生に係るデータや、研究者による知的財産を守るためには情報セキュリティ確保の組織的体制が必要ですし、活動を振り返り、改善につなげる評価は大学として組織的に継続していくべきものです。DXの目標は、デジタル活用による組織の全体最適化で、そのためには組織を俯瞰的に把握する視点が必要で、

総務企画はその立場にあります。私はラジオ少年だったので、山口大学工学部電子工学科に進みました。本当はモノづくりがしたかったのですが、卒論でコンピュータの基礎理論をテーマとしたことが、デジタルへの入り口でした。将来、「むかし松野っていうデジタルの専門家がいて、彼が組織改革に取り組んだから今の山大があるんだよ」と評価されるよう、理事・副学長の業務に励みたいと思います。



Matsuno Hiroshi

### 02 進士 正人

理事・副学長（人事給与マネジメント改革・地域連携担当）

#### 地域とともに山口の活性化をめざす

2001年に山口大学工学部社会建設工学科に赴任して、社会インフラ整備、特に道路トンネル建設や維持管理に関する研究・教育を行ってきました。そのため、国や県、建設関係団体とのつながりが強く、山口の道路は走りやすいと言われるとうれしい気持ちになります。4月からはより幅広く地域が抱えるさまざまな課題解決に大学が積極的に関与するために、地域未来創生センターを再編し学内のワンストップ窓口としての機能強化を図ると共に、山口市、宇部市と地域連携プラットフォームを立

ち上げ、それぞれの市の地域課題を大学の総合知を結集し解決するシンクタンクを目指しています。地域活性化人材育成事業（SPARC）に採択されたことを契機に、これからは山口県立大、山口学芸大と共に地域で必要とされている文系DX人材育成に全面的に協力し、地域でしなやかに活躍する人材を育成したいと考えています。元来、山口は奈良時代からつづく大変長い歴史を持つ地域です。その山口に誇りをもって未来に夢をつなぐしなやかな人材を育成したいと考えています。



Shinji Masato

### 03

### 上西 研

理事・副学長（学術研究担当）

#### イノベーションの連鎖を地域から世界へ

イノベーションを次々に創出することにより、地域の社会資本を増大させ、地方創生に繋げていくために、次世代のオープンイノベーションの仕組みとして、地域課題プル型のイノベーション・エコシステムを山口大学が主導して構築したいと考えています。県・市町などの地方公共団体と協力しながら、地域の大企業、中堅・中小企業、スタートアップおよび地域コミュニティ等の多様なステークホルダーが有する視点・アイデアと山口大学の研究力を有機的に結合させ、地域を実証フィールドとした独創的な

研究開発により社会イノベーションを創出していくチャレンジです。この山口大学版オープンイノベーションとも言える新しい仕組みの中から、飛躍的に成長する企業が生まれ、地域が発展し、そこから還元された「知」・「人材」・「資金」により山口大学の教育・研究を充実させることができます。さらに、個性のかつ競争力のある研究への重点投資を積極的に行うことにより、世界をリードするグローバル・エコシステムの中核拠点を創造し、イノベーションの連鎖を地域から世界へ展開して行きたいと考えています。



Kaminishi Ken

### 04 葛 崎 偉

特命理事・副学長（教育学生担当）

#### 時代の要請に応える大学教育

山口大学に赴任してから、あっという間に30年近く経ちました。その間、所属の教育学部と東アジア研究科（博士後期課程）で「情報科学」や「情報処理」に関わる教育研究に従事しつつ、全学のアドミッションセンターと留学生センター及び東アジア研究科の運営管理にも携わりました。30年の間、情報技術が急速に進歩し、社会もそれと共に激しく変化するようになりました。大学の使命は今も昔も変わらず次世代を担う人材育成です。変化する現代社会及び予

測困難な近未来社会の担い手を育てる今日の大学教育は、大学人として、これまで以上に強い使命感を持って、柔軟かつ新しい発想で進めていかなければなりません。地域や社会の要請に応えられるように、従来の一般教育と専門教育はもとより、文理・分野横断的教育や地域課題解決型キャリア教育等を展開していく必要があります。教育学生担当副学長として、これらの大学教育を確実に進めていきたいと思います。



GE Qi-Wei

### 05

### 溝部 康雄

理事・副学長（人事労務・財務施設担当）

#### 教職員や地域が惚れる大学に

令和4年4月に理事・副学長（人事労務・財務施設担当）を拝命いたしました。本学のさらなる発展のために微力ながら全力を尽くしてまいります。人事労務担当として、働き方改革を進めたいき、教職員のワークライフバランスを大切に、誰もが働きやすい魅力ある職場づくりに取り組んでいきます。財務担当として、国からの運営費交付金など基盤的経費の安定的な確保が年々厳しくなっていますので、本学が目指す教育・研究や

これらを通じた社会貢献を実現していくため、財務諸表等の分析により、予算の効率的・効果的な執行を行うとともに、寄附金や産学連携による産業界からの資金受入れなど多様な財源確保に努めてまいります。施設担当として、本学のキャンパスを学生、教職員、研究者だけでなく、地域や産業界などさまざまなステークホルダーと共に最大限に活用して、新たな価値を生み出すイノベーション・コモンズ（共創拠点）にしていきたいと考えております。



Mizobe Yasuo





Nanamura Mamoru

06

七村 守

理事 (大学戦略担当)

### 自分の人生の主人公は自分だ

私の座右の銘です。一度しかない人生、大いにチャレンジして後悔のない人生にしたい。新しいことにチャレンジしていけば自分の人生を最高に出来ると思っています。

そのような志を持ち、1990年10月に独立して起業し、様々な困難を乗り越えてきました。おかげで11年後には上場企業となり、現在も成長を続けています。

中でも一番記憶に残っているのは、設立3ヶ月で資金ショートしそうになり、取引会社の前金で乗り越えられたこと。事実を伝え(資金

がなくなる様子をストレートに伝えたことで相手がむしろ信用してくれたおかげ)、情報をオープンにすることはむしろ武器になることを早い段階で学べたことがその後の経営思想を確立できるきっかけになった。王道の経営を学ぶことができたと思います。

上記の経験を踏まえ、大学運営においては経営者としての視点で大学経営についてアドバイスできること。さらには学生起業家をも創出できる風土形成に影響を与えられれば嬉しく思います。



Sugino Norihiro

09

杉野 法広

副学長 (病院担当)

### 変革の場としての大学病院

大学病院の役割として高度医療を提供することは言うまでもありませんが、大学病院は学術研究の場でもあります。大学病院は、多くの優秀な医師などの医療人のキャリア形成を担い、高度医療とともに学術研究を進展させ世界に向けて情報を発信していくことが大切です。今日の我が国におけるアカデミアには、AI技術等の進展がもたらす社会 Society 5.0を念頭に置いた研究の改革が望まれています。私は、平成30年に設置したAIシステム医学・医療研究教育センターを中心に、AIを用いた医療

データ解析と診療ソフトウェア等の開発を進めると同時に、未来の情報医学を担う人材の育成を推進しています。

医用データサイエンス研究を推進することにより、AIを使うことができる医療人、医療を理解できるAI研究者の育成を図ります。多様な価値観の融合が、医療分野において、新たな変化を生み出せる人材を輩出することに繋がると考えています。

07

岡田 実

理事 (地方創生担当)

### 鳳凰山を眺めながら

山口大学事務局(吉田キャンパス)から眺められる東鳳凰山から西鳳凰山にかけての美しい山並みがことのほか好きです。岩国から柳井、光、下松、周南、防府、山口から宇部、山陽小野田、美祢、下関、長門、萩などと連なる山口県内各地域の逞しさを想起させるからです。ことほどさように山口県内各地域にはそれぞれ際立った素晴らしさがあります。と同時に、様々な地域課題も多く抱えています。それぞれの地域の魅力に磨きをかけ、それぞれの地域の課題に確固たる突破口を与えることが知の拠点とし

ての山口大学に地域から求められている重要な役割だと思っています。

山口大学は9学部、8研究科を擁する巨大な地域の基幹総合大学であり、地域の各分野に優秀で多彩な人材を多く輩出しており、県内の行政機関や産業界などとも強い連携協力関係を有していることなどが何よりの強みです。山口大学への地域からの期待は大きく、地域から真に頼りにされる大学になることが強く求められています。



Okada Minoru

10

鍋山 祥子

副学長 (ダイバーシティ推進担当)

### ダイバーシティの推進は既成概念を壊すこと

社会の変化は加速しています。これまでうまくいっていたやり方や当たり前だと思っていたことを漫然と継続するだけでは、対応できないことが増えていきます。これは、個人々々の仕事の仕方だけでなく、組織としての方針にも言えることです。山口大学が目指す「ダイバーシティ・キャンパス」は、多様なニーズをもつ人たちも安心して修学や研究、就労ができるだけでなく、すべての人が「自分自身も多様な存在である」という認識のもと、互いにつながることで新たな発想や価値を生み出すことのできる

場です。そのために、山口大学とつながっているみなさんの声を聞かせてください。

みなさんの「こうだったらいいな」が、次世代が学び、研究し、働きやすくなるためのヒントになります。かつて、高杉晋作が「おもしろきこともなき世を(に)面白く」と詠みました。できない理由ではなく、やるための方法を考える。そして実現したら、面白い。わたしは、そのためにここにいます。



Nabeyama Shoko

08

レール マルク

副学長 (学術基盤・情報化推進担当)

### 「情報の宝箱」、輝け!

大学は大きな「情報の宝庫」です。少なくともそうあるべきだと思います。このような宝箱で一番悩ましいのは、せっかく大切なものがいっぱい入っているのに、なかなか取り出しにくいことです。学術基盤・情報化推進担当の副学長として私は、山口大学が持っている様々な情報をできるだけ取り出しやすく、扱いやすくしたいと考えています。そこで図書館は情報提供の場としてだけでなく、活発なコミュニケーションの場としてもますます大きな役割を担っています。埋蔵文化財資料館は山口のユニーク

な歴史の一部を記録・展示することによって、過去と現在を繋ぐ役割を果たしています。そして、デジタル時代の重大な課題である、膨大な情報の安全な蓄積、入念な整理と素早い伝達には、高度な情報インフラストラクチャーの整備と管理が求められています。

このような環境を整備・維持・発展することによって、山口大学は「情報の宝箱」としてさらに多彩に輝くことを目指しています。



Loehr Marc

11

石井 由理

副学長 (国際連携担当)

### ポスト・コロナの再スタートへ向けて

COVID-19パンデミックの1年半の間は、学生ばかりでなく、研究等のための大学教職員の海外渡航も途絶えることになりましたが、この間にオンライン会議ツールを用いたシンポジウムなどの形で国際共同研究や国際交流が継続され、新たな国際連携の可能性を拓いたともいえます。また、留学生の派遣、受け入れが再開され、海外からの訪問団も訪れるようになりました。

2022年度から第3期に入る重点連携大学事業など、ポスト・コロナの国際連携に向けて

大学は動き始めています。

今後は、国際連携担当副学長として、私自身の留学経験、山口大学での学生の海外研修や留学生の指導などの経験を活かして、ポスト・コロナ時代の山口大学の国際連携活動の発展に向けて貢献していきたいと思っています。



Ishii Yuri